

矢作川流域圏懇談会通信

R7 市民部会編 vol.1



発行日：令和7年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第20回市民部会 WG を開催しました！

第20回市民部会 WG では、流域連携イベントおよび公開講座に関する情報共有・意見交換を行いました。

日時：令和7年7月31日（木）14:00～17:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 第1研究室

参加者：14名 ＊事務局含む



◆主な会議内容

1. 流域連携イベントに関する意見交換



9月7日（日）に開催される矢作川感謝祭と、10月5日（日）に開催される三河湾大感謝祭の出展内容を共有しました。

矢作川感謝祭では、①矢作の恵みプロジェクト（流域内の食材を使用したおにぎり）、②矢作川流域圏懇談会や流域の重要性の説明パネル、③矢作川の生き物タッチプール、④みんなにとって矢作川はどんな川？（景品付き）、⑤矢作川クイズ（景品付き）を実施することを共有しました。

三河湾大感謝祭では、①矢作の恵みプロジェクト（流域内の食材を使用したおにぎり）、②矢作川流域圏懇談会や流域の重要性の説明パネル、③海で起きている問題を動画で解説（海部会）、④海の生き物パネル展示、⑤みんなにとって矢作川はどんな川？（景品付き）、⑥矢作川クイズ（景品付き）を実施することを共有しました。

出展内容を踏まえ、矢作川流域の素晴らしさを市民に広く知っていただく工夫点について、意見交換を行いました。

2. 公開講座に関する意見交換



松沢氏より第6回公開講座のテーマとして、「資源の循環」から農を考える」という案が提示されました。このテーマに基づき、農業の現状と課題、食の安全性に関する課題や活動、農業の未来などをテーマに講演とディスカッションを行う構想が示されました。

また、同氏より公開講座の流れとして、以下の案が提示されました。

- ①今回の公開講座の趣旨 今なぜ“農業”なのか？
 - ・公開講座で農業を取り上げた背景や意味などの説明
- ②農業に関する問題・課題など
 - ・具体的な農業の問題や課題の説明
- ③未来につながる活動・取り組み
 - ・これからの農業につながる活動や取り組みの説明
- ④農業と流域のつながり・課題など
 - ・流域連携の必要性の示唆、問題提起

提案を踏まえ、農業の現状と課題、環境問題との関連、食の安全性、地域活性化などの観点から、市民の意識を変える必要性等について意見交換を行いました。また、講演者の選定や構成、ディスカッションの進め方についても、より効果的な情報発信と参加型の講座を目指して、具体的な議論がなされました。本日の出された意見を踏まえ、後日詳細を検討します。



農業生産法人 みどりの里の野中氏にも参加いただき、農業の現状と課題について意見をいただいた。

みどりの里では、無農薬、無肥料を通じ、作物の本来持っている生命力、おいしさを引き出す自然栽培の確立に取り組んでいる。

【山村再生担い手づくり事例集 取材ノートより】



◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●流域連携イベントに関する意見交換

- ・ 昨年のイベントでは、美味しいおにぎりが好評で、来場者の皆様に矢作川の流域についてある程度の理解を深めていただけたと思われる。今年のイベントでは、矢作川への関心をさらに高めていただけるよう、皆様のご意見を伺いたい。（鈴木）
 - ▶ コンセプトはどのような内容を想定しているか。（事務局）
 - ▶ 生産者は、アサリの激減や海苔の栄養不足の影響で厳しい状態が続いている。イベントでは、生産者と消費者が直接顔を合わせ、つながる場所となれば良いと考える。（鈴木）
- ・ お米も海苔もおいしいため、おにぎりは塩むすびで良いと考える。（沖）
- ・ おにぎりのチラシについては、説明文を大きくして矢作川流域の恵みをアピールすべきである。（光岡）
 - ▶ おにぎりの美味しさを通して、環境や流域の重要性も伝えられるような表現方法を検討している。（事務局補佐）
- ・ 海苔の色見本を見せることで、海の栄養塩問題に関心を持ってもらえる機会となると考える。同時に、海部会での活動をアピールすることもある。（近藤）
 - ▶ 綺麗な海ではなく、豊かな海を目指すことの重要性を伝える必要がある。（高橋）
 - ▶ 栄養塩の問題に関心を持ってもらうため、イベントでは色落ちした海苔を展示する。（事務局補佐）
- ・ おにぎりを握る人が足りない状況である。（鈴木）
 - ▶ 昨年は事務局補佐がお手伝いしていたが、今年は事務局側ではなく懇談会のメンバーと協力して実施したい。（事務局補佐）
 - ▶ 前もって条件等の擦り合わせができれば、無門福祉会の協力が得られる可能性がある。（野中）
 - ▶ 無門福祉会に協力を依頼するため、事務局・事務局補佐と調整する。（鈴木）

●公開講座に関する意見交換

- ・ 矢作川の水循環、林業、農業など上流から海までの繋がりを主題とし、生産者と消費者の関係性を豊かにする方法を探ることができればよいと考える。野中さんの経験から、現在の課題と将来への希望を共有し、意見交換したいと思う。（鈴木）
 - ▶ 気候変動の影響で病害虫が増えてきたり、新しい病害虫が出てきたりしている。一方で、新規参加者が増えてきており、福祉施設のメンバーも仕事ができるようになってきているという希望がある。（野中）
 - ▶ 食べ物の問題を単なる経済問題として捉えるのではなく、自然との関わりを通じて、物事の本質を理解することが重要である。（山本）
 - ▶ 人間は自然の一部ということを一般の方々が忘れてしまっているため、そのことに気付いていただけるような公開講座になるとよい。（藤永）
 - ▶ 農業の問題や課題は多岐にわたるが、流域圏懇談会の公開講座としてどこまで取り上げるか、コンセプトを明確にする必要がある。（光岡）
 - ▶ 土作りが農業のベースであり、水循環と海の豊かさにも影響する。流域圏懇談会の公開講座としては、矢作川の土や水循環について議論ができればよいと思う。（井上）
- ・ 第6回公開講座のテーマ、内容、流れなどの案としてまとめた。4つの項目（趣旨、課題、未来への取り組み、流域との繋がり）を含むストーリー構成を考えているので、皆様のご意見を伺いたい。（松沢）
 - ▶ 岡崎市では、学校給食に有機米を導入し、環境問題への取り組みを始めている。このように、自治体が主導して農家の協力を得やすい環境づくりを行う可能性や、農福連携について取り上げることも案として考えられる。（沖）
 - ▶ 岡崎市がオーガニックビレッジ宣言を行い、交付金を活用して学校給食に有機栽培農産物を導入した。このような形で、市民の声により行政の取り組みを後押しすることが重要である。（藤永）
 - ▶ 話が拡散するとテーマを絞り切れなくなる。また、基調講演者をどなたにしようかが課題である。（近藤）
 - ▶ 実際に農業に取り組んでいる人物（野中さんや山本シゲさんなど）を候補として考えている。（松沢）
 - ▶ 吉田太郎先生の有機農業に関する講演が良かったため、案として考えられる。（藤永）
 - ▶ 人口減少時代における農業と地域創生の問題を扱うとともに、農業を自分事として捉え、消費者の意識変革を促すことが公開講座の落としどころになると考えられる。（近藤）
 - ▶ 人として健全で安全な食を確保するために、何をしないといけないのかを考えることが大事である。その中で、農業のスマート化をどうやって推進し、若年層を取り込んでいけるかを考える必要がある。（松沢）
 - ▶ 人材確保の観点から、障害者の農業分野への就労支援に取り組んでいる。障害のある方々は、それぞれの得意な分野で能力を発揮し、職員と協力しながら作業を進めている。ほかにも川の取水口の清掃等、取り組めることは多くあると考えている。これらの活動や成果について、より多くの方々に知っていただきたいと考えている。（野中）
 - ▶ 松沢さんが提案した起承転結の流れをベースにしながら、講座内容をさらに拡充していくべきである。今回、「食と農業」というテーマを初めて取り上げたが、今後も継続的に取り組むべき重要な課題だと考えている。（近藤）
 - ▶ 名古屋環境大学でSDGsに関する講座などがある。共通する部分があれば流域圏懇談会と力を合わせるができるかもしれない。（高橋）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。

